









No.	種名 Species	月別出現状況													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
		E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.	E.L.			
109	マミチャジナイ <i>T. obscurus</i>							-	-	-	-				
110	ツグミ <i>T. naumanni</i>	-								-	-	-	-	-	-
111	ウグイス <i>Celtia diphone</i>	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
112	イイジマムシクイ <i>Phylloscopus ijimae</i>	+	+	+	+	+	+								
113	キタビキ <i>Ficedula narcissina</i>							-	-						
114	サメビタキ <i>Muscicapa sibirica</i>							-							
115	エゾビタキ <i>M. griseisticta</i>							-							
116	ヤマガラ <i>Parus varius</i>	-	-	-	-	-					-		-	-	
117	シジュウカラ <i>P. major</i>	-	-	-	-	-				-	-	-	-	-	-
118	メジロ <i>Zosterops japonica</i>	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
119	シラガホオジロ <i>Emberiza leucocephala</i>									-					
120	ホオジロ <i>E. cioides</i>	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
121	ホオアカ <i>E. fucata</i>									-					
122	カシラダカ <i>E. rustica</i>									-	-	+	+	-	
123	ミヤマホオジロ <i>E. elegans</i>									-		-			
124	シマアオジ <i>E. aureola</i>									-					
125	ズグロチャキンチョウ <i>E. melanocephala</i>										-				
126	アオジ <i>E. spodocephala</i>											-	-		
127	クロジ <i>E. variabilis</i>									-					
128	オオジュリン <i>E. schoeniclus</i>										-				
129	ツメナガホオジロ <i>Calcarius lapponicus</i>										-				
130	アトリ <i>Fringilla montifringilla</i>									-	+		+	-	
131	カワラヒワ <i>Carduelis sinica</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+
132	マヒワ <i>C. spinus</i>									+	+		+		+
133	ハギマシコ <i>Leucosticte arctoa</i>									-	+				
134	イスカ <i>Loxia curvirostra</i>									-	+	+	-	-	
135	ウソ <i>Pyrrhula pyrrhula</i>									-	-	-			-
136	コイカル <i>Eophona migratoria</i>													-	-
137	イカル <i>E. personata</i>									-	-				
138	シメ <i>Coccothraustes coccothraustes</i>									-	-				
139	スズメ <i>Passer montanus</i>	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
140	ムクドリ <i>Sturnus cineraceus</i>									-	+	-	-	+	+
141	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>	-					-			-	-	-	-	-	-

ハクセキレイ・タヒバリ・ツグミ・シジュウカラ・カワラヒワ) である。残りの108種は、少数が短期間滞在するだけの種となる。

観察された141種の鳥類の月別観察数の変動を表わしたのが図1である。春と秋にピークがあり、11月上旬には最高の62種が観察されている。それに対して夏は観察数が減少し7

月下旬には最低の19種が観察されただけである。

八丈島の鳥の生息密度は、三宅島より低い(樋口ら 1981)。これは、植生の違い、開発の度合、イタチ放獣等様々な要因が関係していると考えられる。しかし、それにもかかわらず、2年間で観察された鳥の種類が141種というのは決して少なくはない。これは鳥に対して八丈島が果たす役割と大いに関係がある。八丈島で観察される鳥類の種類は春と秋、特に秋に多い。すなわち八丈島が、これらの鳥類の渡りの中継点になっていると考えられる。しかし、観察鳥類の個体数がきわめて少ないところから、渡りのメインルートではなく、サブルートもしくは迷行個体・衰弱個体の避難所と推測される。

迷行個体としては、ヤマショウビン・ズグロチャキンチョウ・ツルクイナ・アカガシラサギ・シラガホオジロ・ツメナガホオジロ等が挙げられる。ただし、これらの鳥類の中でヤマショウビン以外の5種は1920年代にも八丈島で観察されている。このことは、これらの鳥類が八丈島に比較的良好に出現する事を示唆しているのかもしれない。また、2年間という短い観察期間でははっきりとは言えないが、他の地区では通常よく見られる鳥が八丈島では迷鳥である可能性もある。衰弱個体としては、冬季陸に上っていた海ガモ(ピロードキンクロ・ホオジロガモ・スズガモ・クロガモ)、保護され死亡したコミミズク・アマサギ・ゴイサギ・ツルクイナ等が挙げられる。

八丈島で2年間鳥を観察して、この島が大変未知の可能性を秘めた島であると感じた。今迄観察記録の少ない島であったが、今後数多くの人がこの島を訪れ、観察記録を残してくれることを期待する。なお、今回の報告に際し、筆者らと共に観察を行った福田澄雄、荻原世津女、茂手木清、茂手木晴美の各氏ならびに貴重な情報を提供して下さった西方幸子、松崎修の各氏に感謝の意を表します。

#### 文 献

- 榎山徳太郎. 1922. 八丈島産鳥類二三に就て. 鳥, 3 (12・13): 61—71.  
 ————. 1924. 伊豆八丈島採集鳥類目録. 鳥, 4 (16・17): 100—109.  
 ————. 1926. 伊豆八丈島の鳥類に就て. 動物学雑誌, 38 (456): 347—351.  
 ————. 1932. 日本産鳥類の新産地報告一東. 鳥, 7 (33・34): 301—328.  
 樋口 広芳. 1973a. 伊豆諸島の鳥類(I). 鳥, 22 (93・94): 14—24.  
 ————. 1973b. 伊豆諸島の鳥類(II). 鳥, 22 (93・94): 24—25.  
 樋口広芳ほか. 1981. 鳥類生息調査一島しょにおけるイタチ放獣が野生鳥類に与える影響一. 東京都.

#### Birds of the Hachijojima Island observed during Two Years

Shinichi Takagi, Masamichi Itoh,  
Yumiko Takagi, Kaoru Itoh

Birds were observed on Hachijojima Island, one of the seven islands of Izu from April 1984 to March 1986. The birds could be classified into 16 orders, 35 families and 141 species. Thirty three species were observed with greater frequency than the others which stayed on the island only for a short time. The number of species observed was larger in spring and fall, particularly in fall.

c/o Takagi, 2-4-3-223, Shirogane Minato-ku, Tokyo 108